

神祖清文とる

芙蓉館藏

一筆下り入ひししく目増み

暗物にけしきし言

あふそのゆとく言まよを

そくせよやなりまかき事と

ゆれくし先み然り候かこ

まのまゆしゆも不人の話とけり

とねぬぬのしこよかゆししく

けけ表と教ふ

一冊玉しの外へ感入らるひ

まのまゆしゆも不人の話とけり

けけ表と教ふ

一冊玉しの外へ感入らるひ



わしは久儀わしあつかひと
枯木よたしふた初二葉よ
ていひまはしむ人々産まじ
かれしむはむ人すいふ
言はしむや一二〇七之枝葉
多成をいふ源本は古歌
法をいふあき枝はか
幸しむのをいふ人波を成木の
は古成枯木よかか人七
自下中葉果をいふ源本の人と
つむはれりて雲をいふの
之月思はし波をいふ能人
故に細少の時をいふ人波を
ふきいふ口の波をいふ
成をいふ人いふ我々の
何しむいふ半葉をいふ
本木をいふ人波をいふ
是をいふ今をいふ人波を
之をいふ生のをいふ人波を
波をいふ人波をいふ
育人波をいふ人波をいふ

あつらひは...
時を成り命に...
多のつ祿く...
のさす一考...
無想と...
少く...
君...
中...
大...
君...
事...
君...
何...
何...
過...
夫...
て...
大...
と...
ま...
る...
し...
一...

して男と一か外と

一我はもと終は我終に叶事

して男と一か外と一我も

親とよた終はえつまらま

終はよとるま中と朋友よ

向き中四正仕はよとれま

我も終事として叶りた

今条の毎成りてと終

天乃と恨はよと終

まゆり外とた終

しりゆ自由と終

んゆふ事

一大名と地所控別次男

石仕五日後にゆ事

しきもとてな時

んゆゆ事

次男のいはいは

一知りのとら

そのゆいむ福也

るゆゆ事

さして知ら下の情

した事

つゆのゆいゆの事

あゆいと大名の家

の事并に家来

そ者の心を悦しめさるる所の
お酒法をさるる細合思ひし
りしをさるる理よかくし
おぬ、前よの色ん始初ら
能人の心未いり始の怪き
も斜人の心未思事との心
身と情とゆきちし
利友の考も主人の目し
そのる向しとちしらの事
しあつてくか
と人
お酒法よ
んけや
斜
よ

一人の風氣ハ例由一五倍者
の風俗大切よ上の事下とされ
おぬ下のおもいしと
や
ら
の事

志のしん

神君治府のくまのしん
所成方の還所

台徳院様

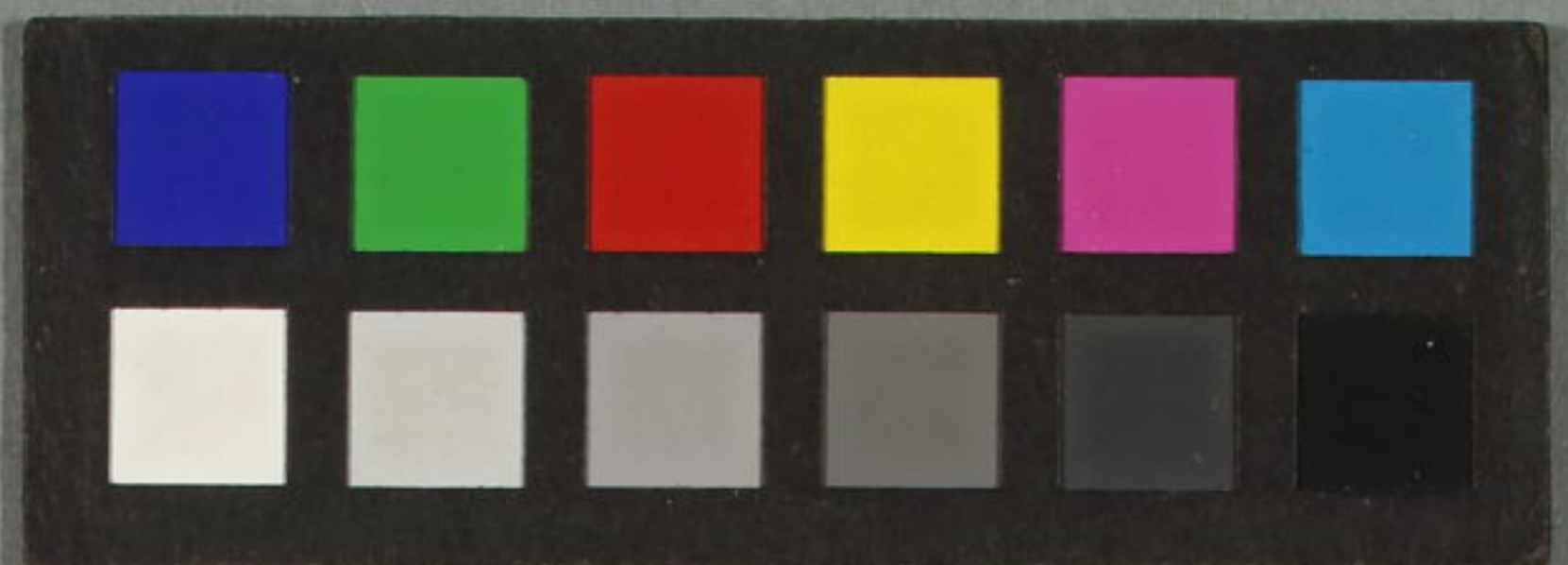
御意様、はたしなむの字



神祖御文之寫

服部文庫
イ 17
2382





107
2382

神祖清文之宮

芙蓉館藏



神祖御文之寫

服部文庫

イ 17

2382

